

長野・静岡・三重 地域会員懇談会



中経連は委員会の見直しおよび平成29年度事業計画(案)について、各地域会員の皆様との意見交換を目的に、地域会員懇談会を開催した。参加者の主な発言は以下のとおり。

※愛知・岐阜 地域会員懇談会は4月号にて掲載済み。

各地域共通のご意見

- 人材不足に対する危機感が強い
- イノベーション委員会、地域産業活性化委員会に対する期待が高い

■3月16日(木) 長野地域会員懇談会

参加者：豊田会長、山浦副会長、水野副会長、
花岡副会長をはじめ21名

座長：花岡副会長

- 産学官連携は全ての分野に必要。産が中心となって学・官をつなげ、取り込んでいくことが重要
- 中小企業はAI、IoTまで対応する余裕がない。支援をお願いしたい
- 中部横断自動車道の早期整備を推進してほしい。長野県内は、高規格幹線道路の整備計画が決まっていない道路もあり、なかなか整備が進んでいない。県全体の動きを盛り上げる必要がある
- 観光DMOは、北陸を含めた広域連携の取り組みを期待したい
- 海外調査団に期待したい。若い人にこのような機会是有用



長野愛知電機(株) 小田 新一 社長

■3月22日(水) 静岡地域会員懇談会

参加者：豊田会長、中西副会長、水野副会長、
中田副会長をはじめ24名

座長：中西副会長

- 地域産業活性化委員会は、商工会議所の個別の活動を地域で横串を刺して動けると良い。例えば、浜松の防潮堤建設等、行政と連携した特徴ある施策で地域の活性化に活かせると良い
- 中からだけでなく、外から見ると地域のことが良くわかるのではないか。地域産業活性化委員会には、このような視点での分析、提言を期待したい
- 都市間格差が拡大する中、独自プロジェクトがないと地域は活性化しない。まちの再開発に向けた容積率の緩和、民間資金活用による財政制約の解消等、制度の見直しも必要
- 静岡は名古屋と東京にはさまれた経済圏のため、広域連携が重要。中経連には、静岡と中部のつながりをつくることに期待したい
- 昇龍道プロジェクトは、富士山静岡空港、伊豆も含めた広域での取り組みをお願いしたい
- SNSの普及による消費者の価値観・意識等、ライフスタイルの変化が経済に与える影響について、どこかの委員会で取り組んでほしい



木内建設(株) 木内 藤男 社長

■3月23日(木) 三重地域会員懇談会

参加者：豊田会長、須田評議員会議長、小林顧問、
上田副会長、水野副会長、小川副会長
をはじめ33名

座長：上田副会長

- リニア中央新幹線の開業で懸念されるストロー効果も念頭に置き、中部圏のビジョンをつくってほしい
- 地域産業活性化には新産業の育成が重要。イノベーションによる新産業の創出によって地域を支える産業の育成につなげてほしい



(株)三重銀行 種橋 潤治 会長

- 四日市港は、アクセス道路の整備による利便性向上が重要。霞4号幹線、新名神高速道路の整備による渋滞の解消に期待したい。渋滞解消は運転手不足にも寄与する。加えて北勢バイパスと中勢バイパスの接続、東海環状自動車道西回りの早期整備を推進してほしい
- サミットの成果も活かして、昇龍道プロジェクト、海外販路拡大等に協力してほしい
- 人口減少、人材不足への対応として、外国人労働者の規制緩和や移民受け入れの是非について議論してほしい

(総務部 伊藤 康隆)



広い観点から意見が出され、活発な議論が行われた。

これらの取り扱い、豊田会長および議長を務めた

中西副会長に一任され、会議での意見を反映したうえ、3月27日開催の理事会および総合政策会議に諮ることとした。

(総務部 亀井 勝彦)

常任政策議員会議



3月21日(火)、中経連は常任政策議員会議を開催し、18の委員会・懇談会(部会を含む)を12の委員会へ集約する「委員会の見直し(案)」、その見直しを踏まえた「平成29年度事業計画書(案)」「収支予算書(案)」について審議を行った。

参加者からは、「事業の推進にあたっては、各委員会が担当するテーマで重複してくる分野もあるため、各委員会の連携を図り、縦串と横串を上手く刺していくことが必要」「地域産業活性化委員会は新年度の目玉となるもので、その活動に期待したい」「スーパーメガリージョンの形成にあたって、東京一極集中是正に向けて、首都機能や企業の本社機能の中部圏への移転等が求められる」など幅

フライ・セントレア懇談会 in 東京

3月21日(火)、中部国際空港利用促進協議会(代表理事:豊田中経連会長、山本名古屋商工会議所会頭)は、東京都内にて航空会社や旅行会社、物流会社等の関係者を招き「フライ・セントレア懇談会 in 東京」を開催した。

懇談会では、中部国際空港(株)代表取締役社長の友添雅直氏より、セントレアが立地する中部圏の産業や観光地としてのポテンシャルの高さ、中部国際空港の旅客数・就航便数の推移と今後の見通し等についてご説明いただいた。

続いて、(株)JTB代表取締役社長の高橋広行氏より、「旅行需要の見通しとセントレアへの期待」をテーマにご講演いただいた。高橋氏は、「2017年の日本人の旅行需要は2016年並みで、インバウンド需要については10%以上の増加が見込まれる」と説明された。また、「セントレアには東京ー大阪の中間という立地や昇龍道のゲートウェイという強みがある。それらを活かしインバウンドの需要拡大や、さらには若年層が海外渡航に関心を寄せる施策を実施すればアウトバウンドにもつながる」といったセントレアへの期待を語った。

その後、事務局より中部国際空港利用促進協議会の取り組み内容について報告を行った。

(社会基盤部 和田 耕一郎)

企業見学会(三菱電機株式会社)

中経連では、企業の研究開発力やイノベーション力の強化のため、会員の皆様に企業や大学、公設試験場での取り組みについて紹介する活動を実施している。

3月23日(木)、IoT時代に向け、ロボット等の先端技術と最高品質をベースとしたFA統合ソリューション「e-F@ctory」を提供されている「三菱電機(株)名古屋製作所」の見学会を実施し、約40名が参加した。

はじめに、名古屋製作所副所長兼ロボット製造部長の森田英昭氏より、「現場のものづくりと情報系を上手くつなぎ合わせて、工場の改善に結びつけることを日々検討しており、見学会を通じて参考になれば幸いである」との挨拶。次いで、ロボット製造部ロボットテクニカルセンター長の荒井高志氏より、「e-F@ctoryと智能化ロボットが実現する自動化ソリューション」と題して、技術講演をしていただいた。



森田英昭氏による挨拶の様子

その後、FAコミュニケーションセンターの施設や、e-F@ctory化モデル工場の「シーケンサ製造工場」「サーボモータ製造工場」の製造工程において、稼働管理や作業支援、品質管理等の具体事例を見て、「IoT時代のつながる未来の工場」について理解を深めた。

参加者アンケートでは、「最先端の工場を見学できて大変有意義だった」「今後の自社工場の展開を検討する上で参考になった」など、全員から「満足・ほぼ満足」の評価が得られた。これからもアンケートの意見・要望を取り入れながら、企業や

大学、公設試験場での取り組みを紹介していく。

(産業振興部 加藤 信和)

定例記者会見

3月27日(月)、中経連は総合政策会議終了後、豊田会長の定例記者会見を行った。



はじめに、中部圏の経済情勢について、中経連会員への最新アンケート調査で各種指標が改善したことから、足元の状況は明るさを取り戻しつつあるとの見方を示した。

一方、先行きについては欧米の動向を注視する必要があるとして、米国の保護主義的な動きへの懸念と、4月に予定されている日米経済対話への期待を示した。

続いて、5月に設立予定の昇龍道観光を推進する新組織「(一社)中央日本総合観光機構」の体制を紹介(本誌7ページ参照)。最高執行責任者(COO)に、前の英国政府観光庁の日本・韓国代表、アシュリー・ジョン・ハーヴェイ氏を起用することについて、「専門家としての手腕に期待するとともに、外から見た昇龍道エリアの魅力を、掘り起こし、磨き上げ、発信してほしい」と起用の狙いを語った。

次に、中経連の委員会新体制と平成29年度事業計画を発表(本誌2~6ページ参照)。中部圏の取り巻く情勢の変化を受け、活動の選択と集中を図り、重点分野として、イノベーション委員会、地域産業活性化委員会を設置し、国際委員会、観光委員会、人材育成委員会の機能を強化すると委員会見直しの考え方を述べた。加えて、「各委員会の活動を大いに活性化させたい。活発に議論を交わし、各委員会の間でしっかりと連携をとり、経済活性化につながる具体的行動に移したい」と意気込みを語った。

(総務部 奥田 知子)